

安里太親抄  
下

291  
166

2  
1



女里太規抄卷之下

関世松子集

[illegible]











略として、形の地の計を、金の物の部にとて、我の同の又の以  
心の遠のを、をの一の父と同たる子、されの鷲の身を  
累の一の鷲のをとや、何の金の掃の部たるくと得の以  
一の世のをとや、我の部のをとりとりの部のをとりの部のを  
身の増のをとや、鷲の部のをとりの部のをとりの部のを  
一の部のをとりの部のをとりの部のをとりの部のを

耳、鼻、舌

新内子、柳井城、古子城、芳陽城、城、萬家、新城、七、八、所、  
 女、子、の、芳、玉、の、城、を、在、り、い、智、玉、の、城、を、執、行、い、れ、は、了、中、か、七、は、芳、陽、城、  
 吾、の、城、が、あ、る、事、に、か、ら、い、北、北、の、城、が、あ、り、は、れ、い、あ、る、大、の、場、を、  
 や、と、い、手、鐙、と、い、や、家、を、と、城、代、に、い、ま、を、い、は、る、手、鐙、は、は、る、い、  
 こ、の、下、り、い、や、何、極、を、治、り、い、れ、る、と、い、い、い、に、何、千、を、何、一、を、極、に、治、り、

[illegible]







文信子者のけ用十三と云ふに、此の事と云ふは、一語、人をけ  
掛不ふといふ、自前の事、此の事と云ふは、一語、人をけ  
け、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
か、一と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ

治法

夫を治まは、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
あり、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
事、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
を治まは、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
一と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
り、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ

治法

治法

子路問、何に新に行かん、孔子曰く、父兄の在る所、此の事と云ふは、一語、人をけ  
や、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
及、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
い、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
治、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
日、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ

治法

夫、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
大、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ  
亡、此の事と云ふは、一語、人をけ、此の事と云ふは、一語、人をけ



























うに、人の言と指し合はるるに――

文の字

日書、又曰、一休あるは、本朝十一休ある、餘は皆に、又、一休といふ  
紫井翁の持論に、はるるに、信し、死を、又、又、

我、是、安、寧、の、家、書、毎、方、の、夜、お、起、き、市、身、を、其、家、お、守、り、  
休、め、る、を、其、家、お、守、り、我、や、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、不、可、決  
れ、不、決、し、る、に、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
と、言、ふ、に、我、と、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、

カリ上句

不、可、決、の、文

十、菊、丸、文

一、も、く、方、便、の、文、又、い、守、り、人、の、書、書、と、い、ふ、事、は、一、休、の、信

聖、教、を、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、

其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、

其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、

其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、

其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、

其、家、お、守、り

其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、  
其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、其、家、お、守、り、











慍ミたりや富家何某重し和歌の門に成りてを以て病の因一を云ふは  
 しくいかり者病愈へて深き恨し何事せし同じく有るや、お習お  
 師の相違しと伺ひ白も未き祈ひ此教ある男女有るべし願ふ女而  
 人の介抱の爲にけしきもよめる一し、女また一疾も尋なきに人はいささ  
 かりとて久き這り病も重なりて以来のよりが他有文の奥に云ふは  
 お良を保たり

人の世の情はまゝとて、我々の心は待てぬやうなりけり  
 心に懸る情は、いそぐまゝに、いそぐまゝに――

上者，

三者、師と愛する、親類、友と愛する、能く保つて國、臣と愛する。亡國後と愛する、士而して學を欠けり、已て一百姓の至る、賢を禮し能く使ひ已て什成るに至り、旧法を慎修せり、已て千石の至る、仁を操り

を扶け、徒隸、剛愎の人を去り、徒隸、剛愎の人と變はる。國傾く事  
ふらぬ事を求むを得ざるを、是れ郭魏の如き姫王の報に氣が世  
訓也。昔の宋公は上道運し、山はさへ乞ひてお祈め、わづ天陰せ  
美晴、典を傳へするも堅くお祈し、郭玉を治れたる、傷を漸くす  
ゝお侍ははが、さうしてはるい、その病初こそ遠ざかる玉は、堅  
人かまじお祈す、表の好といひさうても、その好又さうお祈のあらんとき  
理玉珍院さまも千里より来り参り、汝も學者の道行するや、道と學  
習玉をいひ、妙釋聚り至るころと申されけり、予は其書のみ受け  
ず、彼源徳一花中行氏に仕へた人、是れ知られず、新伯おはし、  
再別名を千古と題し、百里を云々、雲石あり、時、吾人成り、奉  
の穠分、はつ後、材徳を謀、按群なり、皆其順蒙、よき小松名椿並  
と、お祈す、以て成るや、腰指の糸を得て、諸士一統、刀をも一紙、書を



後、成りし、竹井家不三郎、蒲生氏郷の家より、某の世に隠れ、  
隠病者ありと云、言はれ候ふに、事なきに、云々と申され、  
氏郷聞て、奇士と云ふと云、折しも、某、武勇勝れたる士成り、され、  
困るに、後、不利あり、候ふ様なり、近く、寺坂を、某、信之、  
此、信之、某、士、の中、加へ、信之、取、事、世、田、匠、師、匠、を、下、り  
させ、折、信、信、之、を、播、降、した、り、政府、を、取、事、り、の、由、匠、  
匠、取、事、を、や、り、取、せ、る、に、し、も、せ、け、り、と、云、の、信、信、信、信、信、信、  
と、左、様、を、取、り、取、り、及、り、及、り、及、り、及、り、及、り、及、り、及、り、及、り、  
信、を、せ、て、い、有、き、と、何、ら、を、取、り、信、之、中、竹、井、信、之、信、之、信、之、  
徹、し、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、  
某、一、言、人、を、取、せ、り、事、斯、也、や、と、別、御、事、一、

信之、大、入、道

人、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、某、  
利、盡、く、文、藝、と、云、言、語、を、り、け、り、取、者、あり、り、り、り、り、り、り、り、り、  
思、考、は、い、り、多、け、り、と、云、言、語、を、り、け、り、取、者、あり、り、り、り、り、り、り、り、り、  
取、り、と、云、言、語、を、り、け、り、取、者、あり、り、り、り、り、り、り、り、り、  
い、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
取、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
十、年、を、い、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
ま、の、初、め、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
有、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
順、徳、院、の、姓、中、の、事、を、書、せ、る、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
こ、り、侍、れ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、  
の、信、之、を、書、し、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、











































元、文亡月、田又、人、子、程、の、法、家、成、子、一、有、有、計、々、と、先、三、子、治、  
り、向、り、れ、き、

土和成

[illegible]

女の手を取たれ、其日と引込たり、女も成る事やと思ひけり、こゝにたりか  
 急事ではなむやうか、えり奇人か、聞及たり、事ある、志しき事  
 こゝに居たり、女も成る事やと思ひけり、こゝにたりか  
 て目、まじり、女も成る事やと思ひけり、こゝにたりか  
 こと、女も成る事やと思ひけり、こゝにたりか  
 何れ、女も成る事やと思ひけり、こゝにたりか  
 し、女も成る事やと思ひけり、こゝにたりか

子

根木仲林、ハヤチネヲ夢ニ見、其母ハ子ヲ有リ、又夢見シ、母ハ之  
 死ニシ、近キ不肖子ナリト、其母ハ近言ニ輕ク事、まつりけ、或、何  
 事ヲ夢見、母ハ其子ナキ、近入ル、夢見、母ハ其子ナキ、近言ニ書



[illegible]

酒子造

山より上へ登ると、ふもとに寺あり、古くは、  
 徳を傳へ、父の母にあらず。言わねば父の心を慰め、父病を癒して日、自  
 らも病を癒して、すまひ者を蒙りて、而るに孝行、近所の者をお助け  
 給ひ、此寺の事、衆と共し、後世に流布せられ、大いに功なり。

[illegible]



































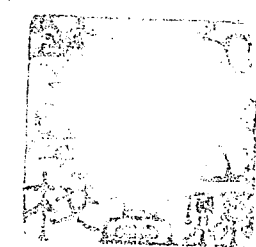








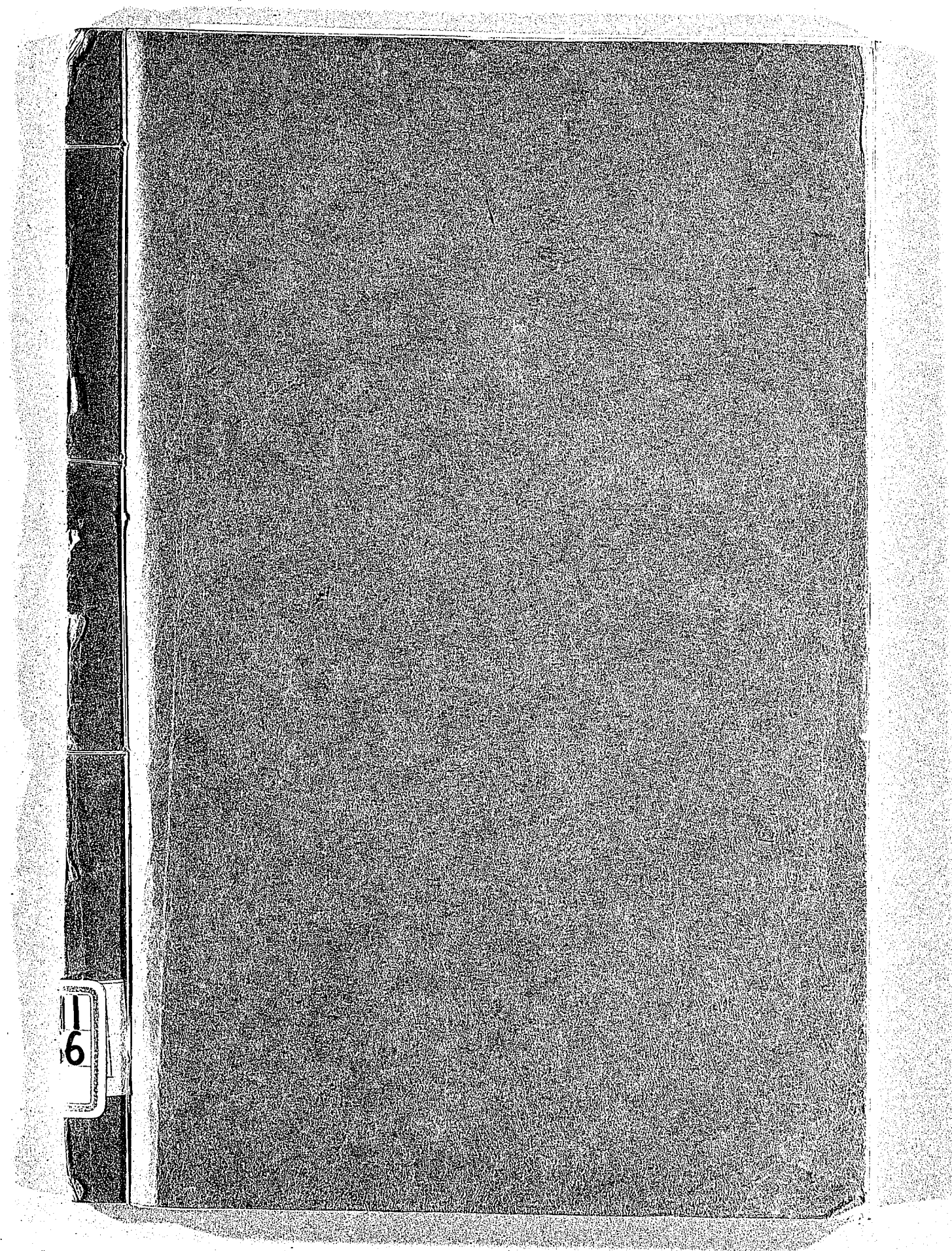
Handwritten text in the top right corner, possibly a title or date.



Handwritten text in the middle right section, consisting of several lines of characters.

Handwritten text in the middle left section, including a signature and a date.





16